事業者向け　児童発達支援評価表(2023 年度版)

公表：令和 6 年 2 月 14 日
事業所名：広島西こども発達支援センターくれよん

※森グループ→毎日通園、草原グループ→週 1 通園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・コロナ感染予防で、できるだけ密にならないためにホールの活用をしています。 ・共有スペースは時間予約表を作り計画的に使用しています。 ・これまでの午睡の部屋に加えて、休憩の部屋も設置しています。（森グループ）	
	②	職員の配置数は適切である	○		・子どもの特性に合わせた丁寧な支援を行うため規定人数より多く、職員配置をしています。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・「場所」「時間」「活動」の構造化、視覚的手がかりの利用などを日常的に行っています。 ・個々の身体特性や障害特性に合った椅子等の工夫をしています。 ・全室バリアフリー化しています。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・生活空間の整理、整頓を常に行い余分な情報が子どもたちに入らない工夫(パーテーションの利用を含む)をしています。 ・季節を感じる小物や花などを日常的に飾っています。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		・正規職員はチャレンジ自己管理シートを活用し、各個人の目標設定と振り返りを期首、中間、期末に行っています。 ・事業所としては、年間事業計画の作成、中間での評価や年度末の振り返り、次年度に向けての見直しや協議を行っています。 ・新たに、重点項目実現会議のチームに職員が参画しています。	・今後も計画的に業務改善を意識した取組の推進を行います。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・保護者等からの意見や要望に耳を傾け、できるだけ改善の方向に取り組むように努力しています。	・今後も保護者等の方の意向把握をしていきます。

	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・法人のホームページ内に公開しています。また玄関にも掲示しております。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	・現在は、第三者による外部評価は実施していませんが第三者評価項目による自己評価を毎年行っています。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・法人全体の研修計画に則り、階層別研修、事業所ごとの OJT、OFF-JT、SDS を充実させていくように努力しています。	・今後とも、積極的に研修機会の充実に努めます。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・サービス等利用計画の評価も参考にしながら、適切な児童発達支援計画作成に努力しています。 ・研修を定期的に行っています。 （感覚統合・発達の理解等）	・子どもと保護者のニーズをより把握できるアセスメントツールを工夫していきます。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・子どもさんの状況に合わせて、遠城寺式乳幼児分析的発達検査表、新版Ｋ式発達検査及び WPPSIⅢ・WISCⅣ知能検査、S-M 社会生活能力検査の定期的な実施を行っています。	・WISCV 知能検査、VinelandⅡ適応行動尺度等の導入を予定しています。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		・できるだけわかりやすい具体的な支援内容になるようにしています。	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		・定期的に実践の評価や見直しを行っています。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・職員間で協議し、毎日の日案や行事などの指導案を立案しています。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・年齢別教室だけでなく、発達課題別教室を編成しています。 ・絵本を基にした遊び、季節の行事を取り入れた遊び、室内遊び、感覚統合遊び、戸外遊び、就学前指導教室、プール療育（森グループ）など次回の活動が待ち遠しくなる活動	

					を準備しています。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		・子どもさんの年齢や発達課題に応じて適宜、個別活動や生活面での個別対応を行っています。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・毎日立案する日案や指導案を使い、正規職員・短時間職員と必ず事前に打ち合わせをしています。	
	⑱	支援終了後には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・正規職員だけでなく、短時間職員とも、適宜振り返りや気づきを共有しています。 ・ケース共有会議の定期的な開催を行っています。	・ケース共有会議の回数を増やしていきます。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・管理者・主任・副主任が必ず確認をしています。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・教室の担当者や児童発達管理責任者が参画しています。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・ネットワーク会議への参加や、関係機関との連携を日常的に行っています。	
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	㉔	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・移行先と情報の共有を行っています。	

	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・教育委員会や学校との情報共有を適宜実施しています。	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・発達障害者支援センター等の研修を定期的に受けています。	
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		・近隣の保育園との交流を実施しています（森グループ：年長児のみ）が今年度も感染予防のため実施できていません。	・来年度は交流を計画しています。
	㉙	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		・事業所として、発達支援部会の事務局に入り、主体的に参画しています。	
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・日常的な子どもの様子の伝え合い、個別懇談、発達検査後の懇談などを行っています。	
	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	○		・ペアレント・トレーニング等を含む保護者研修を定期的に実施しています。（森グループ）	
保護者への説明責任等	㉜	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・利用前の説明の時に、丁寧にお伝えするようにしています。	・ご不明な点がございましたら、いつでもご質問ください。
	㉝	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	㉞	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・タイムリーな相談に乗り、懇談を実施しています。 ・家庭訪問を実施しています。（森グループ） ・定期的な懇談日を設定しています。(森グループ　草原グループ)	・子育ての悩み等があれば、いつでもご相談ください。
	㉟	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・月に１回、地域別の保護者の集いを開催しています。（森グループ）	

	㊱	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	㊲	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・教室便りやグループ便りを適宜発行しています。 ・センターだよりを 1 年に 1 回定期発行をしています。 ・必要に応じて一斉メールで情報を発信しています。 ・インスタグラムでの発信も始めました。	
	㊳	個人情報の取扱いに十分注意している	○		・情報の個人保管場所には鍵をかけています。 ・個人情報使用同意書をいただいています。	
	㊴	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・視覚的な手掛かりを積極的に使用しています。 ・口頭で伝えるだけでなく、文書やメールなど文字に残る伝達方法を工夫したり、何度か繰り返し伝えるようにしています。	
	㊵	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・毎年 11 月にくれよんフェスティバルを開催し、地域の方に来ていただくようにしています。 ・毎年 12 月に地域の市民センターのギャラリーにこどもの作品を展示しています。（今年度は改修工事のため中止）	
非常時等の対応	㊶	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・発生を想定した訓練を計画的に実施しています。 ・マニュアルは職員間や保護者に周知しています。 ・いつでも見ることができるように玄関に置いています。	
	㊷	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・年 7 回、教室時間内に訓練を実施しています。（うち 2 回は防災教育を実施しています）	
	㊸	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		・利用開始時や必要に応じて随時、調査票や保護者からの聞き取りにて状況確認を行っています。	

	㊹	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・医師の指示書を必ず頂き、朝のミーティングで献立を確認しています。 ・アレルギー確認表を事務所内に掲示して必要に応じて確認できるようにしています。	
	㊺	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・法人全体で、ヒヤリハット報告書を作成し、全職員への回覧を実施しています。	
	㊻	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・虐待防止や権利擁護の研修を定期的に実施しています。	
	㊼	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		・契約書等で、緊急やむを得ない場合の身体拘束について、説明・了解を得ています。 ・子どもの状況に合わせ、身体拘束することなく活動に取り組めるよう、配慮しています。 ・運営規程・重要事項説明書に記載してあります。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。